

ちまた

興味深かった「木山」講座

上月隆之 45 教員

(真庭市)

10月10日、開創1200年記念事業リレー講座「神と仏に祈る山―木山寺と木山神社」を受講した。午後2時から開講だったが、標高約420mの山上にある境内は、少し肌寒く感じられた。

講座は、神仏習合思想を中心に「木山」への信仰を日本の宗教史から概観するもの、西美作の霊山「木山」の歴史をたどるもの、今回の木山神社奥宮改修の際に見えられた神像群と木山寺の所有する美術品について解説するものという3講座だった。

定員約50人で、会場はほぼ満席。年配の方が多いように見えた

が、中には歴史や美術の愛好家や研究者と思われる方も参加しているようだった。地元で暮らす私にとっては、幼いころから遠足や福引会陽などでなじみの場所だったので、どの話もたいへん興味深かった。

立の間から遠くに人里が見えた。「木山」が、度重なる火事や明治期の廃仏毀釈などの災難を乗り越え、現在、この地にあるのは、そこで奉仕する僧侶や社男、木山に帰依した戦国武将、地元の子、遠くからの参拝者の力の尽力によるものだろう。この地を守ってきたのは、多くの人々の祈りであったのだと思った。